

19

関東総合通信局

やりがいを
感じられる
職場です。

■ PROFILE Suetsugu Masayuki

平成20年 4月 総務省採用
関東総合通信局無線通信部陸上第二課
平成22年 4月 総合通信基盤局電波部衛星移動通信課
平成24年 4月 情報流通行政局地上放送課
平成24年 8月 情報流通行政局放送政策課
平成26年 4月 現職

関東総合通信局
放送部放送課

末次 正幸

平成20年入省



とある
一週間

● 月曜日

週末に送られたメールの確認、郵送される届出書類等の処理を行います。

● 火曜日

免許人や新規開設を希望する方からの相談を受け、打合せを行います。

● 水曜日

進行管理に気を付けつつ、開設、変更、検査等の提出書類を審査します。

● 木曜日

出張に出ることもあります。現在多いのは放送局開設にかかる電界調査です。

● 金曜日

業務に関して打合せのため、本省へ行くこともたびたびあります。

🔊) 放送を通じて人々の生活に安心と豊かさを

私の所属する放送課では、テレビやラジオなど放送に関わる無線局の許認可業務を行っています。中でも私はラジオに関する無線局の免許等を担当しています。

今就職活動をされている皆さんの中には、ラジオになじみのない方もいらっしゃるかもしれませんが。しかし、東日本大震災以降、自然災害による停電発生時に、復旧までの間の情報伝達手段として、ラジオの重要性が見直されています。

そこで、既存のAMやFM放送事業者、コミュニティ放送局の開設を希望する事業者などが、かつてアナログテレビ放送に使われた周波数帯を使用して、新たな放送局の開設や、難聴エリア解消のための中継局開設を進めています。

また、同じくアナログテレビ放送の空き周波数帯を使用し、V-Lowマルチメディア放送など新たな放送サービスも広がっています。

私たちは、これら放送局で使用する周波数について審査し、クリーンな電波環境を実現することで、皆さんの生活に役立っています。

🔊) 総務省で働く魅力

総務省職員として情報通信行政にかかわる中で魅力として感じる部分は、人によってさまざまあるかと思いますが、個人的に感じたこととして2点挙げたいと思います。

一つは、人々の暮らしに役立っていることが実感できるという点です。特に放送は広く一般の人々に向けて行われるサービスですので、新たな放送局の開設にかかわるといのは、やりがいの大きな業務だと思います。また、それだけに責任の大きな仕事でもあると思います。

もう一つは、新たな技術が社会に広がっていく様子に触れることができるという点です。放送や通信にかかわる新しい技術については、まず実験試験局により技術基準の検討が行われ、その後研究会や審議会などで技術基準が議論され、最終的には実用化され社会に広がっていきます。総務省職員として、そのそれぞれの段階に関わっていけるというのは、特に興味のある人にとっては、とても魅力的であると思います。



Private Time

週末は、山に登ったり、いちご狩りをしたりと活動的に過ごしています。平日も、メリハリをつけて業務を行うことで自分時間の充実を図っています。(もちろん、自分自身の業務の進行管理だけでなく、ライン内の連携も大事です。)